

又今コマの作り方だけでなしに、これに色をつける事によつてもいろ／＼と経験させる事が出来るのである。コマの色のぬり方を、中心から放射状に二色、或は三色にぬり分けておくと廻せば今までの色のちがふ色になつて見える事なども注意して實際にさせて見るとよいのである。

お皿の果物

次に古はがきを縦を二つ折にして、一面にはリネゴなどの果物を、一面は色で縁どりにしたお皿にしておく、二枚の間の中央に古水引の紐をはりこんでおく。兩端の紐を左右に引きながら廻すとお皿の中にリネゴがある様に見える。手輕に出来る幼児たちのよいおもちゃである。夏の講習に、この種のもので一面を水草に、一面を金魚にしたのであるが、これと同様な作り方で、鳥籠を一面に、鳥を一面に、又、花と蝶々などという／＼に考へて作られる。この時に上下のあるものは、これをはる時に心得てはらなければさかさまに見える事である。この事も一つのよい経験であるのである。

織紙

數を實際に數へて作るものうち幼稚園の手法として古くからあるものに織紙がある。織紙として作られてゐる伊興証紙のものは、色も美しく、出来上つたものは紙ばさみなどとして利用して幼児たちがよるこぶものであるが、この材料が手に入らない時には、古はがきを二色にぬりつぶして、五行或は七行位に切つて織紙の材料として使ふとよい。たゞ織紙は行數があまり多いのは

作るのに面倒であるからせい／＼七行位までよい。

ヤジロペー

豆で作るヤジロペーは古くからある面白いおもちゃである。豆をむだにつぶしてしまふのは勿體ないから、粘土で豆がはりに作つて見るとよい。粘土は少しかたい目に作り、大きはるんどう豆より少し大きい目にする。兩手と頭と三個同じ大きさのものでもよいが、頭だけ少し大きく作つてもよい。兩手のヒゴは九センチ位の長さで、中心のヒゴは一センチ半位の長さでよい。作つてから一日、二日位おいてからおもちやにするとはれなくてよい。

この他に普通にもて遊ばれてゐる、カミテッポウ、紙ヒョーキなどしらす／＼のうちにいろ／＼と工夫されて幼児たちを樂しませてゐるのであるが、簡単な是等のおもちやの中にも考へいたれば科學的なよい材料が多いのである。たゞこれを如何に幼児たちに取扱ふかといふ點に一考を要するのである。

誘導保育

菊池ふじの

双六

ひきつゞき製作いたします。

かるた

昔から、双六とかるたは、お正月とは、きつてもきれないつながりがあります。双六製作といつしよに、一方では、かるた作り

なませう。その組のかるたを拵へて、出来上つたら、お正月前だつてかまはない、遊びませう。自分達の作つた、かるた」どんなに喜んで遊ぶか知れません。

先づ、毎日一度みんな集つてイロハのイから考へ始めませう。みんなの考へ出したものの中、適當なのをみんなと相談の上で決めませう。それから、その繪柄をも相談の上で大體見當つてませう。文面がみんな出来なくとも、並行的に、一方では札を拵へて、字と繪とを交るゝ子供にあつて、文字を書かせたり、或は繪を描かせたりいたしませう。こうして、この「かるた」が出来上るまで毎日、集つて考へつゞけたり、作りつゞけたり致しませう。文を考へさせたり、繪を考へさせたり書かせたりですから、製作に對しての期待効果は申すまでもなく、行事に對しての興味も亦云ふまでもありません。以上の他に文字に對しての關心と申ませうか興味と申しませうか、それは絶大なものです。今まで文字に對して少しも興味も關心も持つてゐなかつたのが「かるた」を始めてから急に、假名をすつかり覚えてしまつたといふお話はよく聞く實話です。子供に興味のない文字であるとか又は文字に少しも興味を持つてゐない子供に、假名を教へたいと思ふ時、無理やりに子供をおさへつけてまで教へるといふことに疑を持つ私共に、文字の導入物として、このかるた遊び程いゝものは無いと思ひます。殊にそれが自分達の製作したものですから、その興味も亦大したものであることは申すまでもありません。是非製作して、是非遊ばせませう。

札にする紙は、不用な寫眞の臺紙を利用してよいし、又古いお帖面などの表紙の裏の白いところなどは、丁度適當な材料になることと思ひます。

歌とお話の會

これは恐らくこの幼稚園でもしていらつしやることでせう。今まで親しんで来たお仲間や先生方と、久しくお別れするのですから、一時を一堂に會して楽しく遊び過し度いといふ氣持は、小さいご本人達よりもむしろ大人なる保姆がやり度いことであるのです。第一學期の終りにもしたことです。こゝには詳述を避け、擧筆することに致します。

岩手縣保育會總會

- 一、期 日 昭和十七年十一月二日 自午前九時 至午後三時半
- 一、會 場 市内内丸岩手縣女子師範學校附屬幼稚園
- 一、實地保育 自午前九時 至午前十一時
- 一、總 會 自午前十一時 至正午
- 一、附屬幼稚園研究發表 自午後一時 至午後二時
- 一、實地保育の批評會 自午後二時 至午後三時半